

# 人生100年時代の楽しみ方

第15回

## 高齢の親の運転免許返納について

篠原 克周

フリーランスライター

ロンドンビジネススクールの教授、リンダ・グラットンが著した本『LIFE SHIFT — 100年時代の人生戦略』が注目され、日本でも「人生100年時代」という考えが知られるようになりました。みなさんは、もし100歳まで生きるとしたら、どんな人生を送ってみたいですか。ここでは、人生100年時代を楽しむための、ヒントやアイデアを探ります。第15回のテーマは「高齢の親の運転免許返納について」です。

### ●「夫婦生活は長い会話」とニーチェは言う

2019（平成31）年4月に東京の池袋で起きた高齢ドライバーの暴走事故は、多くの人に衝撃を与えました。その後も、各地で次々と高齢ドライバーの事故が発生。それらを背景に道路交通法が改正され、各地で自主的に免許返納を行う高齢者が増えていきました。

心配したのは高齢者本人だけではありません。「うちの親は大丈夫か」と、中高年世代もこのニュースに反応し、親に免許の返納を勧める人が相次ぎました。ところが中にはスムーズに話が進まない人もいました。説得を試みようと、免許証の返納をすすめたら喧嘩になったというケースです。運転免許返納

の説得は実は簡単ではありません。免許と車を手放した後の移動手段や、車を手放した寂しさなど気持ちの面でも多くの課題が伴います。

まず慎重に考えたいのが「高齢者が運転をやめた方がいいタイミング」です。高齢ドライバーが交通事故を起こす原因は「ハンドルの操作ミス」「ブレーキとアクセルの踏み間違い」「安全確認のミス」がほとんどです。これらは加齢による身体機能、認知機能、判断の速さの衰えに起因するとされています。

たとえば「車庫入れの際、駐車場の壁や鉄柱にぶついたりこすったりする」ことはないでしょうか。または「一時停止や一方通行など、道路標識を見逃したりする」「スーパーの駐車場で自分の車の位置を忘れてしまう」ことが増えていませんか。高齢の親と話をして、これらの兆候があれば、まず警視庁のサイトにある「運転時認知障害早期発見チェックリスト30」を使ってチェックしてみてください。もしこのリストで5項目以上チェックが入れば、認知機能の低下を疑い、専門機関で診てもらうことをおすすめします。高齢の親だけでなく、もし自分自身にも心当たりがあるようなら、ぜひチェックリストを試してみてください。

### ● 高齢の親の心にどれだけ寄り添えるかが大事

高齢の親を説得する際に気をつけたいのは、頭ごなしに「もう年なんだから」と返納を迫るケースです。これをやると親のプライドを傷つけてしまいます。コツは「説得するのではなく、本人に納得してもらえようように話を持っていく」こと。「心配しているんだよ」という気持ちを伝えることです。例えば年間の車の維持費（自動車税・自動車重量税・自



### ■高齢運転者支援サイト

運転免許証を自主返納した方をはじめ、高齢者がマイカーに依存することなく移動することができ、充実した生活を続けられるよう、地域の実情に応じて、自治体や事業者等による様々な支援が行われています。



### ■運転時認知障害早期発見チェックリスト 30

初期の認知機能の衰えについて、運転時に表われやすい事象をまとめています。5項目以上チェックが入る人は、認知機能の病的障害を念頭に専門機関で診てもらうなどの目安としてください。



賠償保険・車検代・消耗品等の費用・ガソリン代・駐車場代・任意保険など）と、一年で使うタクシー代をざっと計算して、どれだけ得か損かを書き出しながら説明してみるとか、もし事故があった際の子どもや孫にかかる負担などを丁寧に説明してみるなども効果的だと思います。

または病院の先生などから「そろそろ自主返納した方がいいですよ」と口添えしてもらったり、親と同世代の高齢の知人が免許を返納したという話をしたりして様子を見るのも良いでしょう。高齢の親の心にどれだけ寄り添いながら、話を進めることができるか、ここが大きなポイントになるかと思います。

### ●事故の加害者にも被害者にもならないように

大事なものは「自動車のない暮らし」で、戸惑いや後悔がないよう、返納後の暮らしや意識をどう変えるかです。車を運転しなくなり、気力が失せた、認知機能が落ちた、外に出ず引きこもりになったという人もいますので、そういう状況に陥るのは回避したいです。

免許を返納すると、病院への送迎、買い物やドライブ・旅行にも行きづらくなるので、暮らしが不便になるのは否めません。これも考え方をどう変え、どう行動を変えるかが鍵です。コロナ禍でキーワードになった「行動変容」は自主返納にも使える考えです。

たとえば「息子や娘、孫の車に乗せてもらえるか」「食材を宅配してくれるサービスが利用できないか」「自動車の運転以外の趣味や楽しみは何か」を考えた話したり話し合ったりするのも良いでしょう。「自動車がなくなるとつらい」という人の中には、運動不足の解消も兼ねて、電動自転車を購入する人などいるようです。

警察署や各自治体の取り組みにも注目してください。返納者への支援が充実し、返納しやすい環境が整ってきています。たとえば栃木県鹿沼市では、65歳以上の自主返納者にコミュニティーバスの「終身無料乗車券」を交付し、京都府警は警察署や免許試験場だけでなく交番や駐在所でも自主返納の申請を受け付けています。ほかにも生活用品の宅配や、医療機関への送迎など、自動車がなくても暮らしに不自由がないよう支援をする自治体もあります。自主返納後の移動手段や生活が不安な人は「高齢運転者支援サイト」にアクセスし、都道府県警察、または都道府県のサイトで支援策や特典を調べてみてください。ちなみに、民間企業でも温泉や宿泊施設の割引サービス、駅近くのマンションの斡旋など、高齢者が外出しやすくなるサービスを提供している所もあるので要チェックです。

事故の加害者にも被害者にもならないようにするためにも、家族みんなでできることを考え、さまざまな支援策なども利用しながら、自分たちにとって何が最適な方法なのか、ぜひ探ってみてください。

